

平成27年度 科学研究費助成事業採択状況

平成27年度の科学研究費助成事業について、本学園の採択件数は大学28件(継続19件、新規9件)、短期大学1件(継続1件)でした。科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までの「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。独創的・先駆的な研究であるかの審査を経て採択された研究に対して助成が行われます。

平成27年6月現在

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究(B)	看護学部・教授 野並 葉子	「糖尿病患者へのエンボディメントケア」の効果検証とその実用化への方略の検討
基盤研究(C)	文学部・教授 大橋 喜美子	幼保一体化に向けた保育カリキュラム・モデルの構築
基盤研究(C)	家政学部・教授 後藤 昌弘	ジャガイモの品種による物理化学的特性と食味におよぼす要因に関する研究
基盤研究(C)	文学部・教授 森 尚也	ベケット作品／草稿におけるテキストと図：ライブニッツ的組み合わせ術と存在論の研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 田中 紀子	季節変化および食生活・生活習慣に起因するエネルギー代謝変動の定量化
基盤研究(C)	家政学部・教授 狩野 百合子	エキストラバージンオリーブ油の食習慣に基づいた複合的栄養機能の解析
基盤研究(C)	文学部・教授 永淵 朋枝	全集未収資料集の作成による藤村研究の再構築
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 植戸 貴子	親による障害者殺害の予防策に関する実証的研究：知的障害者の親の子離れ支援
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 吉川 豊	糖尿病克服を目指した有機・無機ナノ複合体である高活性金属錯体の探索研究
基盤研究(C)	看護学部・教授 内 正子	慢性疾患をもつ幼児の身体感覚を支えるケアモデルの開発
基盤研究(C)	看護学部・教授 藤田 冬子	介護者のためのエンハンスメント・プログラムの評価
基盤研究(C)	文学部・准教授 久野 和子	「場としての図書館」の統合的研究：日本の新しい21世紀型図書館パラダイムの提唱
基盤研究(C)	文学部・教授 狩野 恭	8-10世紀インドにおける主宰神論争史研究
基盤研究(C)	文学部・教授 山内 晋次	火薬原料の国際流通からみた前近代の日本とユーラシア
基盤研究(C)	文学部・教授 松下 孝昭	日露戦後における軍隊の立地と遊廓をめぐる都市地域社会
基盤研究(C)	文学部・教授 今井 修平	播磨国小藩領における地域社会構造の歴史的研究
基盤研究(C)	看護学部・准教授 田村 康子	モロッコにおける助産師を対象とした産痛緩和ケア教育プログラムの効果に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 置村 康彦	分岐鎖アミノ酸の筋萎縮抑制作用の基盤を形成する成長ホルモンの役割
基盤研究(C)	文学部・非常勤講師 李 春子	東アジアの「水」を巡る「伝統の森」の文化の資料化
基盤研究(C)	家政学部・教授 栗原 伸公	昆布摂取および昆布と酢同時摂取による高血圧予防メカニズム
基盤研究(C)	文学部・准教授 橋本(鈴木) 礼子	方言の推量表現に関する文法記述的研究
基盤研究(C)	文学部・准教授 吉村(森本) 真美	イギリス帝国と近代日本一帝國的諸事業・思想の越境的伝搬と展開
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 泉 妙子	介護の可視化 介護技能分析表の作成と暗黙知管理ツールの開発
基盤研究(C)	文学部・准教授 小原 依子	リハビリテーション病院における音楽療法の効果判定と技法開発のための実践的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 山根 千弘	コットンギャップを埋める再生セルロースの構造設計と制御
基盤研究(C)	看護学部・教授 玉木 敦子	地域母子保健における周産期うつ病の予防的介入に関する研究
基盤研究(C)	幼児教育学科・准教授 畠山 由佳子	日本における児童虐待ケースに対する区分対応システムの開発的研究
挑戦的萌芽研究	文学部・准教授 野口 和美	米国の保健外交政策における民間財団の影響に関する研究
学術図書	文学部・教授 三保 忠夫	鷹書の研究

※ゴシック文字は今年度新規採択(9件)

科学研究費助成事業に採択された研究紹介

神戸女子短期大学幼児教育学科
畠山 由佳子准教授

日本における児童虐待ケースに対する区分対応システムの開発的研究



日本で子どもに対する虐待が、社会的に問題視されたのは1990年代になってからのことです。それまでは報道でも「虐待」ではなく「せっかん」という言葉が使われていました。児童虐待相談対応件数を統計として取り始めたのも1990年からです。2000年に児童虐待防止法が制定され、児童虐待の法的定義を定め、すべての国民に対して通告義務を課しました。通告制度は整いましたが、親子分離以外には有効な手段はなく、強制介入の法的後ろ盾が当時は整ってはいませんでした。虐待死事件がマスコミで取り上げられる度に、その非難は児童相談所に向きました。そして世論は「虐待する親は許さない」という方向に傾き、制度はより強制介入的な対応へと変更されていきました。通告が入れば48時間以内で安全確認に向かうことが義務付けられ、今まで地域の脆弱な家族を支える存在であった市町村も児童虐待対応に追われるようになりました。

私は、学生時代から児童虐待ケースに対する家族支援に関心をもち、その実践を学ぶため、アメリカに留学し、現地では家族支援ワーカーとしての経験も得ることができました。日本より30年ほど先に虐待対応制度を作り上げたアメリカは、2000年頃から、強制介入的な対応だけでは、根本的な解決にならないことに気づきはじめました。多くの州でディファレンシャル レスポンスと呼ばれる、通告ケースを「家族に強制介入し安全確保を行う対応」と「家族に必要な支援を家族と共に考え提供していく対応」に振り分ける制度が導入され始めました。私の現在の学術研究助成基金助成金による研究は、このディファレンシャル レスポンスについて、アメリカでの実践をフィールド調査すると同時に日本での通告相談対応の現状を量的・質的調査により把握し、その援用の可能性を探ることを目的としています。

子どもを叩いたら虐待、子育ての手を抜いたらネグレクト、と親を責めたところで何の解決にもなりません。けれども、子どもの安全は確保されなくてはなりません。その見極めが難しいために、どうしても制度は強制介入的な方向に走ってしまいがちです。世間から見たら理想的な親でなくても、子どもにとってはたった1人の母親、父親なのです。可能な限り、家族をバラバラにすることなく、いろいろな事情の家族を支援することを目的とした新しいシステムを現場の仲間たちと共に提案したいと考え、研究を続けています。

神戸女子大学 平成27年3月卒業生の国家試験の結果について

第29回 管理栄養士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	156	150	96.2%
管理栄養士養成課程(新卒)	8,916	8,507	95.4%
全国合計	19,884	11,068	55.7%
第17回 精神保健福祉士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	10	9	90.0%
保健福祉系大学等(新卒)	1,901	1,364	71.8%
全国合計	7,183	4,402	61.3%
第27回 社会福祉士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	51	25	49.0%
福祉系大学等(新卒)	9,905	4,501	45.4%
全国合計	45,187	12,181	27.0%



古典芸能研究センターからの お知らせ



国際研究集会

「見つめる能面・能面を見つめる」

神戸女子大学古典芸能研究センターは、平成26年11月29日(土)・30日(日)にポートアイランドキャンパスで、国際研究集会「見つめる能面・能面を見つめる」を開催しました。

この国際研究集会は、平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された当センターの研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」の一環として開催したもので、2日間で学内外延べ約160名の参加がありました。

初日は、「国際的に多様な視点から能・狂言面を考察する」と題し、研究プロジェクト代表 大谷 節子教授による基調講演をはじめ、国内外の第一線で活躍する研究者による、仮面と仮面劇についての講演が行われました。講演の前に、本学初の国際研究集会開催にふさわしく、茂山 七五三氏・宗彦氏らによる狂言「三番三 鈴の段」が上演されました。また、会場内には、初日限定で、京都の片山家能楽保存財団所蔵の能面二面を展示し、来場されていた人間国宝の能役者 片山 幽雪氏が、飛び入りでその面の解説をしてくださいました。残念ながら、この日登壇予定であったドイツのケルン大学 ピーター・マルクス教授は体調不良で来日ができず、本学国際交流推進部長の海老久人教授



狂言「三番三」(茂山七五三氏)

が予め頂戴していた講演原稿の日本語訳を代読しました。

2日目は、「学際的に多様な視点から能・狂言面を分析する」と題し、宗教学者 山折 哲雄氏の講演とシンポジウム「能面を科学する」が行われました。シンポジウムでは、当センター客員研究員 天野 文雄氏(京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長)の司会のもと、人類学、民俗芸能、美術史、材料科学の各学問分野の専門家が、演者を交えて、仮面そして能・狂言面について研究報告を行い、更に討論者を交えて討議しました。



ピーター・マルクス教授の原稿を代読する海老久人教授



宗教学者 山折哲雄氏



シンポジウム



韓国の仮面(李応寿教授ご所蔵)

両日ともに、ロビーでは能面の写真や登壇者の著書などを展示し、少し長めに設定した休憩時にはコーヒー・紅茶とクッキーのサービスも行いました。それにより、この研究集会に集った参加者と登壇者が、さまざまな立場を越えて自由に研究交流できる場を提供することができました。

今回の国際研究集会は、日本の古典芸能の中でも「能・狂言面」を、同じく面を使った国内外の演劇や芸能と比較考察したり、演劇学や芸能史にとどまらないさまざまな学問分野からの視点や、あるいは演じ手側の視点から考察を深めたりすることのできた2日間でした。もともと能・狂言あるいは仮面に関心のあった参加者は、この研究集会を通して、一層深い理解と新たな発見を得ることができたようでした。



休憩中のコーヒーサービス



ロビー展示(能面の写真と登壇者の著書など)



国際研究集会の開催にあたりご高配を賜った能楽観世流シテ方 片山 幽雪氏は平成27年1月13日にご逝去なさいました。謹んでお悔やみを申しあげます。

面の解説を行う片山幽雪氏

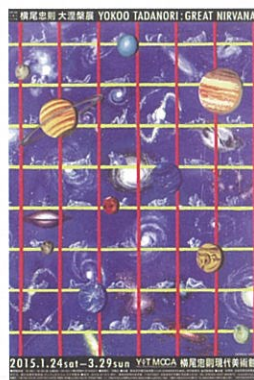
横尾忠則現代美術館「阪神・淡路大震災20年展 横尾忠則 大涅槃展」出品と古典芸能研究センター企画展「涅槃図の世界」

横尾忠則現代美術館(神戸市灘区)で1月24日(土)から3月29日(日)まで開催された「阪神・淡路大震災20年展 横尾忠則 大涅槃展」に、古典芸能研究センター所蔵の志水文庫より涅槃図8点を出品しました。

この展覧会では、兵庫県西脇市出身の美術家 横尾 忠則氏が収集された涅槃像のコレクションとそれに関連する作品、そして参考資料として近代絵画や近世のさまざまな涅槃図が展示されました。

また、古典芸能研究センター展示室でも、2月9日(月)から4月3日(金)まで、この展覧会と2月15日(日)の涅槃会(ねはんえ=釈迦の入滅した日)にあわせて志水文庫のコレクションから涅槃図を中心に他の涅槃図に関連する資料を配した企画展「涅槃図の世界」を開催しました。

今回の展示では、横尾忠則現代美術館と古典芸能研究センターが協力して宣伝活動を行ったことで、双方ともに来館者の増加と認知度の向上につながりました。



横尾忠則現代美術館「大涅槃展」(左:横尾忠則氏作品、右:志水文庫資料)



古典芸能研究センター展示室「涅槃図の世界」

インドネシア ウダヤナ大学 留学生紹介

2014年9月から1年間、インドネシア共和国のウダヤナ大学文学部 日本語学科に在籍しているNi Gusti Putu Wahyu Dianti(ニ・グスティ・プトゥ・ワユ・ディアンティ)さんは、神戸女子大学文学部 日本語日本文学科で日本語、日本文学を学ぶために来日しています。

ディアンティさんの在籍しているウダヤナ大学は、観光地として有名なバリ島に位置します。日本からも多くの観光客が訪れており、ディアンティさんも日本人の友達ができ、日本語をさらに勉強したいと思い1年間の留学を決意しました。履修した科目は全て興味深く学習できました。特に古典芸能コースの特別講義で鑑賞した演舞に感激しました。

ディアンティさんは以前から日本文学への関心が高く、夏目漱石や芥川龍之介の作品もインドネシア語で読んでいたのですが、最近では村上春樹の小説に惹かれています。

そこで、留学の修了研究に、同学科の安原 順子教授の指導の下、『風の歌を聴け』の原文とインドネシア語版に翻訳された隠喩の表現を比較し、論文にまとめることにしました。

同学科の授業以外にも、家政学科の授業で浴衣の仕立てや帯の結び方、着付けも学習しました。課外活動ではデンマーク体操クラブに入り、充実した学生生活を送っています。

また、学生寮で出会った友人の実家で年末年始を過ごし、日本の伝統的なお正月も体験するなど、日本の文化に触れます。ますます日本が好きになりました。

ディアンティさんは、日々日本語を勉強し、毎日多くの友人と会話することを心がけ、来日時から飛躍的に日本語が上達しました。

将来は日本の関連企業に就職し、日本とインドネシアの友好の輪を広げたいと語っています。



ライブラリー・commonsでのディアンティさん



安原順子教授(中央)の卒業論文の授業を受けるディアンティさん(右)



自分で縫った浴衣を着て記念撮影

イギリス ケント大学 留学生紹介

4月13日(月)から2週間、イギリスのケント大学から「イギリス・ケント大学生短期受け入れプログラム」の第一期生として Angelika Sala(アンジェリカ・サラ)さんが来日し、須磨キャンパスで日本語、日本文化を学び、学生たちと交流しました。14日(火)には、神戸女子大学の中島 實学長に挨拶を済ませ、早々に大学の授業に出席しました。

アンジェリカさんは日本語の授業に加えて、「和装文化演習」「古典芸能講読」「民俗文化史」の授業にも出席し知識を深めました。課外活動では華道部、弓道部の練習に参加しました。

今回のプログラムの母体となった英語英米文学科では、イギリス文学関係の授業に加えて、英語習得の授業で各教員のティーチング・アシスタント役をつとめ、学生の英語理解に貢献してもらいました。

神戸国際教養学科の専門科目の授業では、イギリスや母国ポーランドの社会問題や生活様式について説明し、本学の学生も日本の実情を英語で伝えて学び合いました。

短い期間でしたが日本語は上達し、本学の教員や学生と触れあい有意義な時間が過ごせたようです。



歓迎会で質問に答えるアンジェリカさん



日本語の授業の様子



弓道部員と記念撮影



1983年	ハワイ大学(米国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	西安工程大学(中国)
1997年	フライブルク大学(独国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	ガジャマダ大学(インドネシア)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2012年	アイルランガ大学(インドネシア)
2007年	チェンドラワシ大学(インドネシア)	2014年	静宜大学(台湾)

タイ チェンマイ大学との教育・研究交流

5月21日(木)に国際交流協定を結んでいるタイのチェンマイ大学のNisit Panthamit(ニシット・パンザミット)准教授が、須磨キャンパスのライブラリー・コモズでASEAN経済の現状について特別講義を行いました。文学部の神戸国際教養学科の学生を中心に教職員を含む約40名が集まり、パンザミット准教授の講義に耳を傾けました。

神戸国際教養学科では、幅広い国際教養と世界に通用するコミュニケーション力を養うために、語学の学習、留学体験に加え、社会科学、国際協力関係の科目を開講し、国際的な視野をもつ学生を育てています。パンザミット准教授は同学科の小沢 康英准教授が取り組んでいる「ASEAN

経済統合に伴う日系企業への影響」というテーマの共同研究者でもあり、本学を訪問された機会に学生向けの特別講義が実現しました。

約6億人の人口をもつASEAN経済の発展動向の説明で、GDPがヨーロッパやアメリカに追いつくほどの規模になる可能性を秘めていることやASEANの経済協力の現状を当事国の学者から講義されたことは、学生にとって新鮮で一層アジア諸国への関心が高まることへつながりました。

特別講義の後は、チェンマイ大学に留学し3月に帰国した学生たちが、パンザミット准教授と当時を振り返るなど、英語とタイ語を交えてさまざまな話題に言及し親交を深めました。



講義中のパンザミット准教授



特別講義の聴講者と記念撮影



チェンマイ大学に留学した学生と小沢康英准教授と一緒に座談会

中国 華南師範大学 交流協定締結15周年

神戸女子大学は2000年に中国の華南師範大学と友好交流協定を締結し、以来、毎年2名の学生の交換留学を行っています。留学期間は1年または半年です。平成26年度は15回目の交換留学を行いました。

両校が協定締結15年目の節目を迎えたことを記念し、中島 實学長と国際交流推進部長の海老 久人教授が、3月10日に華南師範大学を表敬訪問しました。

交換留学の記念パーティでは、記念品の交換を行い、今後も友好な交流が続けられるように交換留学制度についての意見交換を行いました。

なお、当日、華南師範大学からは、副学長 Prof. Wu Jian(吴坚教授)、国際交流合作處處長 Prof. Dai Shu(戴黍教授)、外国語文化学院日露学科主任 Prof. Li Yannan(李雁南教授)、国際交流合作処事務 Elaine Shen Liling(沈丽玲)の方々が出席しました。

表敬訪問後には、当地で、交換留学生として神戸女子大学で1年間を過ごした華南師範大学の卒業生が8名、現在留学中の神戸女子大学の学生2名も出席し、同窓会を開催しました。席上、中島学長、海老教授と当時を振り返り会話が弾みました。



華南師範大学:神戸女子大学を歓迎する電光掲示板の前に立つ中島實学長(左)と海老久人教授



記念パーティで華南師範大学の副学長Prof. Wu Jian(吴坚教授)から記念品を手渡される中島学長



贈呈された記念品